



理系ナビを発行する株式会社ドリームキャリアの事業部長 新田が、理系学生に対して就職活動に対する心構えを説く“新田塾”キャリアスクールの合間などにしばしば行われ、一部理系ナビ会員の間で高い評価を得ている。その新田が、就職活動に臨む前に知っておいてほしい三つの心得を理系ナビ読者に送る。

理系就活生に送る 就活心得

壱 『就職をする覚悟はあるか？』

今後の進路について、みなさんは『就職』『進学・留学』『なにもしない』と、大きく三つの選択肢が与えられています。これは誰に強制される訳でもなく、自分自身が選択できるもの。しかしながら、就職活動を行っている多くの学生は、その選択に対する覚悟ができていないように思います。『なぜ働くのか』『何のために働くのか』ということに自らの解釈、および意味付けもみなさんの自由であり、その解釈や意味付けはそのまま自身の人生に対する解釈、意味付けになります。だからこそ一旦立ち止まり、『働く』ことにみなさん自身の解釈・意味付けを考えてみてください。それが、働くことへの覚悟につながるはずです。

弐 『大学と社会の違いを理解せよ』

みなさんにおける“大学”とはサービスの提供者であり、学費を払うことで教育を受けています。これを企業に置き換えると、みなさんが労働力を提供することで、対価として企業から給料を得ることとなります。要するに、学生から社会人になるということは、『受領者から提供者へ』に立場が変化するという。つまり、社会に出て働くということは常にアウトプット（成果）が求められるのです。それゆえ、自らの使命・夢・情熱・能力は、どの仕事・業界・企業であればアウトプットを最大化できるかという視点で、いま一度考えてみてください。それが、最終的な選択をする際の大切な軸になるのではないのでしょうか。

参 自分さがしよりも 自分づくりをせよ

“自分さがし”とは、自らにはどんな力があり、何をしたいのかを内から見出すこと。それに対して、“自分づくり”は自らがしたいことを実現するために、必要な力を身に付けること。多くの学生は“自分さがし”にばかり注力し、“自分づくり”が後回しになっているように思われます。しかし、仕事に対する崇高な使命感や熱い情熱を持っていたとしても、能力がなければそのスタートラインに立つことすら難しいのが現状。だからこそ、みなさんがまずすべきことは、『この仕事ではどんな知識・能力・スキルが必要か』『どんな志向性や性格がこの仕事ではマッチするか』といった情報収集。社会で求められる素養において、自分に何が足りないのかを把握できれば、対策も明らかとなります。自らが思い描く未来を実現するためにも、自分は「何をしたいのか」「何ができるのか」「何をやるべきなのか」を考えてみてください。

最後になりますが、新卒での就職活動は一生に一回しかできません。転職活動は極端にいうと、10回でも20回でもできます。一生に一回しかない新卒での就職活動はだからこそ、覚悟を決めて“選択”してもらいたいです。後から振り返り、『あのときの選択は失敗だった』なんてことはありません。なぜならば、選択をする際に決断をしているからです。決断した後にはすべきことは、自身の選択を“正解”とする

ための努力以外にありません。これから、多くの決断を就職活動においても迫られる機会があるかと思いますが、ぜひ選択するまでは考え抜いて、決断したら覚悟を決めて頑張ってください。

『やるなら決めよ、決めたら迷うな』

新田光勇